

フェルメール『真珠の耳飾りの少女』

この作品を書いた人物は、1632年10月31日にオランダの西部の小都市デフルトで生まれ、1675年12月15日43歳という若さで亡くなりました。絵を描き始めたのは正確には分かっていませんが、15歳から21歳までの6年間、画家・画商などで組織される「聖ルカ組合」によって証明された画像のもとに修行に出ていることが明らかになっています。フェルメールは、数々の素晴らしい作品を残していることで有名ですが、それとは反対に『謎多き画家』としても有名です。

この作品には、一人の少女が描かれています。鮮やかな青いターバンに大きな真珠の耳飾りをしています。少女の口元が少し開いているので、何か言いたそうな様子にも見え、また、笑っているようにも見えます。意味ありげな表情をしながら、少女の強い意志を秘めているように感じられ、それに加え、青いターバンが芯の強さを表しているように思いました。黄色と青は補色の関係にあるので、これがまた、高級感のある上品な雰囲気に見えました。少女が着ている茶色の服の素材が少し古い感じがするので、この少女はあまり裕福な家庭ではないのかなと思います。少女の白い服の襟が映り込み、きらびやかに光る真珠が画面の中で静かな存在感を放っているように感じました。背景が黒色になっていることで、少女が浮き上がっているように見えます。

私がこの作品を選んだ理由は、小学生の時に姉と一緒に「フェルメール展」に行ったとき、初めてこの作品を見て、印象に残っていたからです。自分でも何で強く印象に残っているかはよくわからないのですが、この絵には何故か目を引かれます。作者がこの絵を通して私たちに、何を伝えようとしていたのかが、いまだに自分の中では謎ですが、この絵から感じられるちょっとした不気味な感じだったり、かすかに出ている、

少女の初々しきなどが見ている人たちの目を引き、この作者の代表作になったのではないのかなと思います。

私は、以前からこの作品を知っていましたが、印象に残っていただけで、そのあともこの絵について詳しく調べ、観察してみてもなかったのですが、今回、作者や作品について詳しく調べ、観察してみても気づかないような魅力に気づけたりと、新しい発見がたくさんありました。このことから私は、これからの人生で少しでも興味を持つたり、印象に残ったら、そこで終わらせるのではなく進んで調べていきたいと思いました。

